



「安心」を、見えやすく。

安全運転ファクトブック 2025



アクサ損害保険はクルマと共にある人生の安心を「質」から考え、事故防止に取り組んでいます。

本書の位置づけ

アクサ損害保険は、保険商品でお客さまをお守りすると同時に、幸せな日常を一瞬にして変えてしまう自動車事故を少しでも減らしたいという想いから、この「安全運転ファクトブック」を作成しました。

このファクトブックは、「自動車事故」について、当社が保有する各種統計データから読み取ることができる現状と、そこから導き出された事故防止ポイントを、専門家監修のもと取りまとめています。

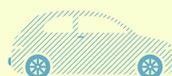
当社のご契約者さまはもとより、広く一般の皆さまにも、どうしたら自動車事故を防ぐことができるのか、ファクトブックをきっかけに考えていただき、自動車事故の防止に役立てていただければ幸いです。

当社はお客さまやそのご家族の人生に寄り添うパートナーとして、皆さまが大切なものを守りながら自らが望む人生を歩んでいただくお手伝いができればと考えています。アクサのパーパス（存在意義）である、「すべての人々のより良い未来のために。私たちはみなさんの大切なものを守ります。」を体現すべく、これからも商品やサービスを通じて安心をお届けしてまいります。

2025年（令和7年）2月
アクサ損害保険株式会社 安全運転啓発室

もくじ

- ① 最新データで見る事故のリアル 3 ページへ >
【アクサ損害保険の取扱い事故データ】
- ② 大事故データに見る発生原因 6 ページへ >
【発生原因のキーワード】
- ③ 大事故から導き出される事故防止策 7 ページへ >
【事故原因のキーワードトップ5】
- ④ 交通心理学から学ぶ事故防止策 10 ページへ >
【右折事故防止のポイント】
- ⑤ 知識が助ける事故発生時の正しい対応方法 11 ページへ >
【事故解決までに注意したいポイント】



1

最新データで見る事故のリアル

【アクサ損害保険の取扱い事故データ】

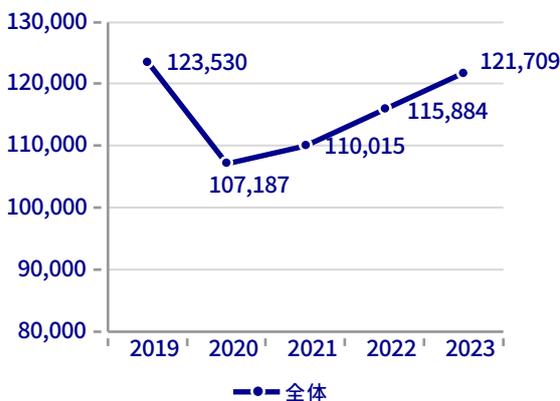
(1) 当社の事故受付件数※の推移

※対人賠償、人身傷害、対物賠償、車両保険の事故受付件数の合算。(自然災害を含む)

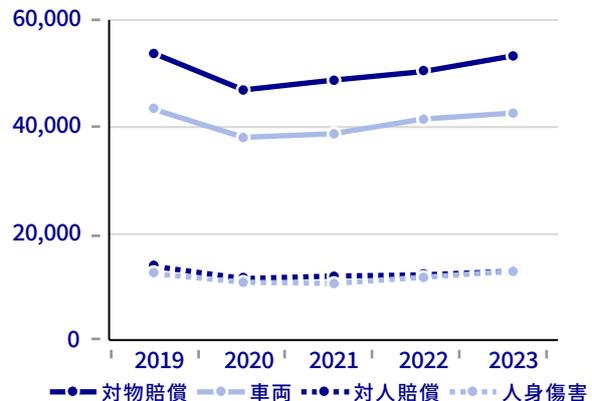
当社での事故受付件数の推移をご紹介します。

COVID-19（新型コロナウイルス感染症）の流行により2020年は2019年と比較して事故受付件数は減少しましたが、その後は増加傾向が続いており、2023年にCOVID-19流行前の件数に戻っています。

(発生件数) <事故全体の推移>



(発生件数) <補償項目ごとの推移>



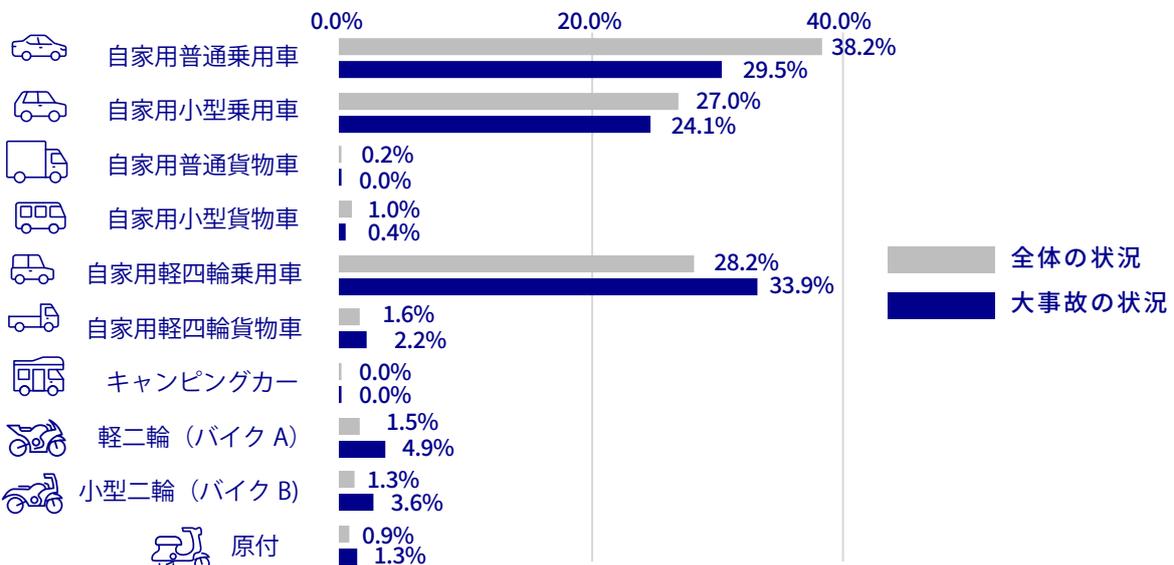
(2) データから見る大事故の傾向

当社が2022年～2023年に受付した全事故データと大事故※のデータを比較した結果、大事故のデータに見られるいくつかの特徴がありました。

※大事故とは「死亡」と「後遺障害」「傷害」の補償で1,000万円以上の保険金支払額となる事故のことを指します。

① 用途車種別の占有率

受付事故のうち、大事故においては「自家用軽四輪乗用車」の割合が高い傾向にあります。

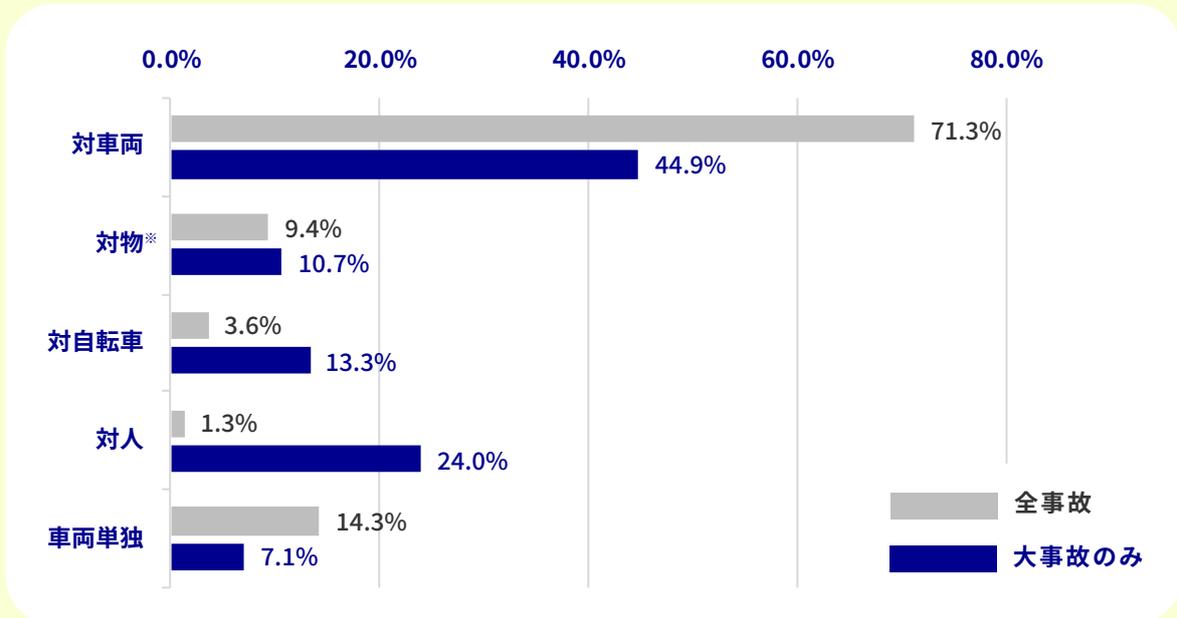


※軽二輪 (バイク A) : 排気量 125cc 超～ 250cc 以下 ※小型二輪 (バイク B) : 排気量 50cc 超～ 125cc 以下 ※原付 : 排気量 50cc 以下



② 事故相手別の件数比率

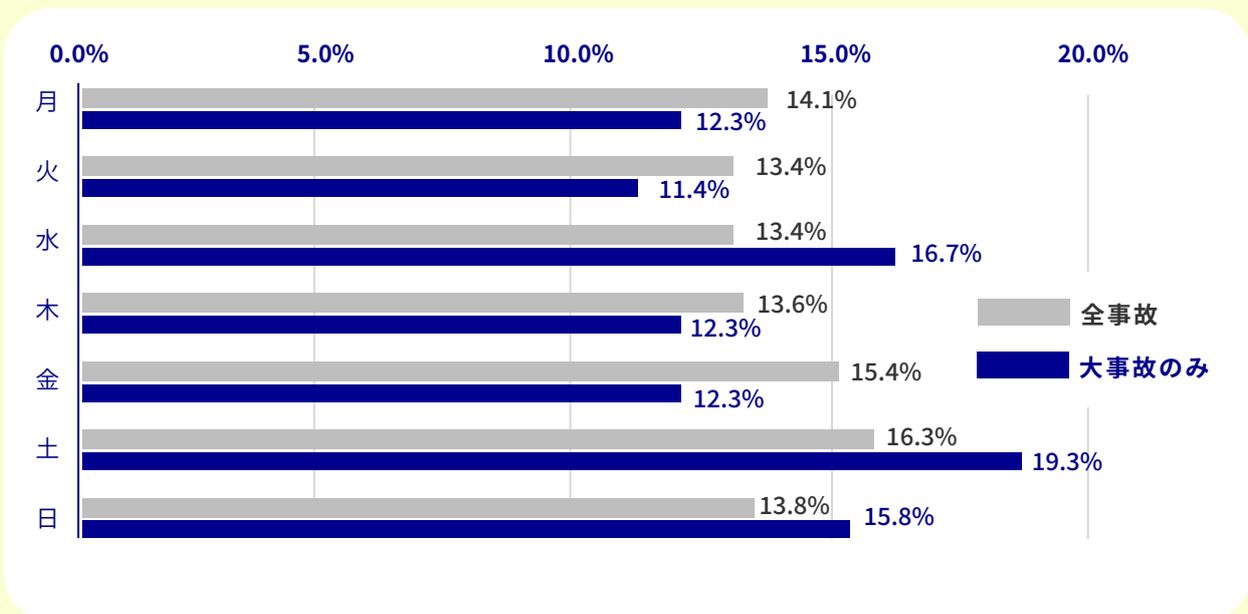
全事故では「対車両」「車両単独」「対物」の順で、大事故のみでは「対車両」「対人」「対自転車」の順で事故の割合が高い傾向にあります。



※対物：車両・自転車以外の他物との衝突事故

③ 曜日別の事故件数比率

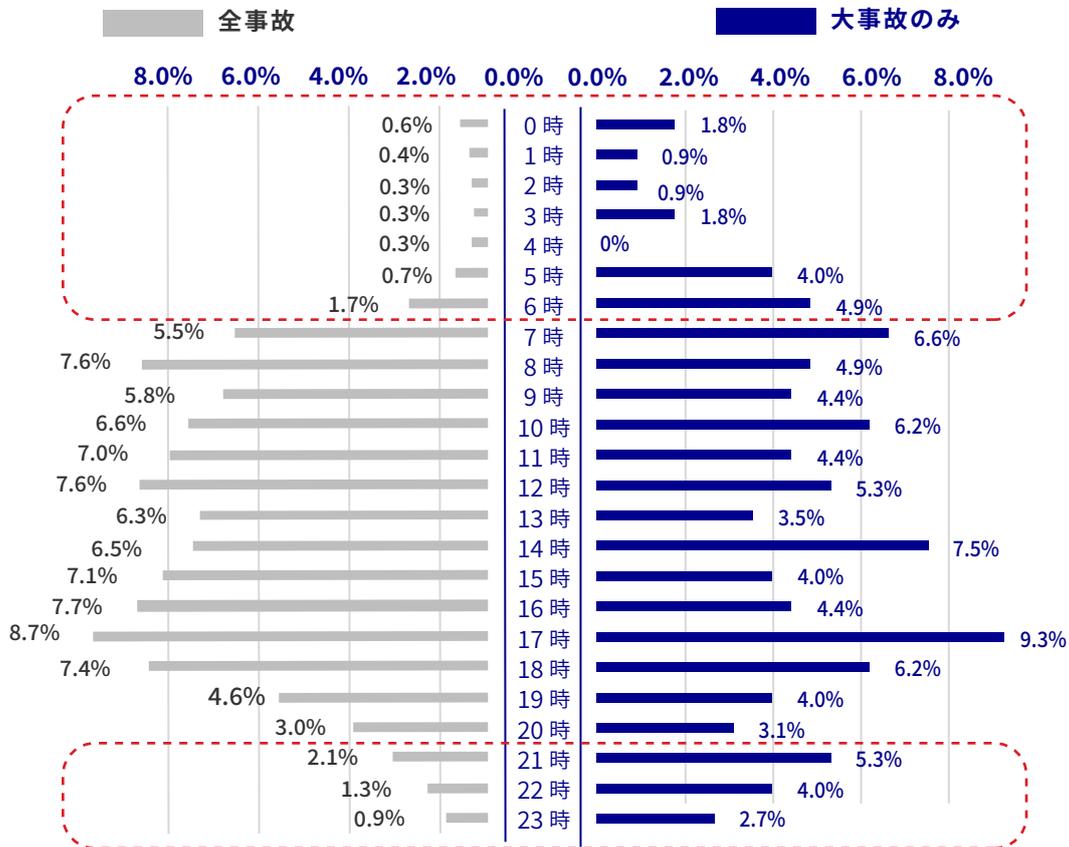
全事故では土曜日と金曜日が多く、大事故のみでは土曜日、水曜日、日曜日の順に多くなる傾向です。





④ 時間帯別の事故件数比率

全事故では17時台が最も多く、次いで16時台、12時台、8時台が続いています。
大事故のみでは、全事故と比較して21時～6時の事故発生率が高い傾向にあります。



データから見える事故防止のポイント

- ・全事故では、朝夕の通勤、通学時間帯の事故が多い傾向です。これらの時間帯は交通量が多いうえ、出社時は急いだり、帰宅時は気がゆるむことが多くなります。慣れた道路でも、十分に気をつけて運転してください。
- ・21時以降は、大事故が多くなる傾向です。夜間はスピードを落とすなど、昼間よりもさらに注意し、安全な運転を心がけましょう。



3

大事故から導き出される事故防止策

【事故原因のキーワードトップ5】

大事故の発生には、一定の傾向があります。ここでは前述した大事故発生原因トップ5から見てくる、注意ポイントを紹介します。

第1位「右折」

右折時に歩行者や自転車・バイクと接触する事故が多く発生しています。



事故防止のポイント

対向車だけでなく、右折先の状況も十分に注意することが必要です。右折時に、対向の直進車ばかりに注意が向いてしまい、「右折先の横断歩道上の歩行者や自転車に接触する事故」が頻発しています。右折時には以下に注意しましょう。

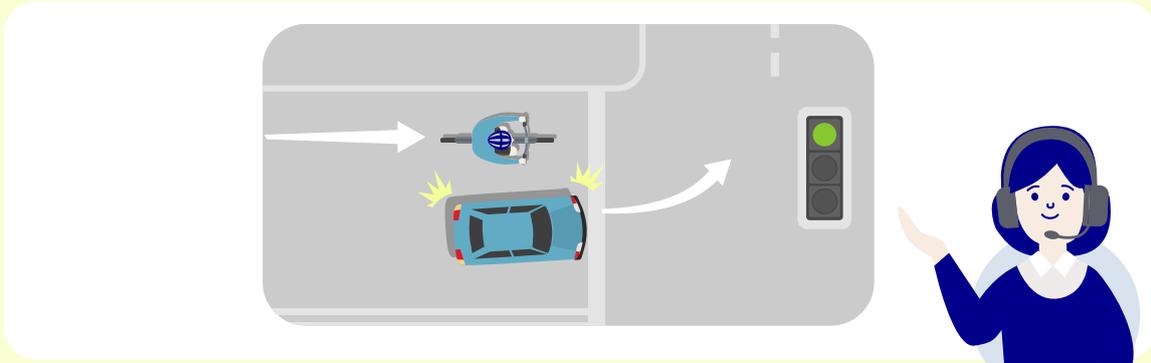
- ・前方や後方から歩行者や自転車が横断してきていないか
- ・右折後の横断歩道には、歩行者や自転車がいないか

※バイクとの接触やその他右折事故については、P10をご参照ください。



第2位「左折」

左折時にバイクや自転車に接触する事故が多く発生しています。

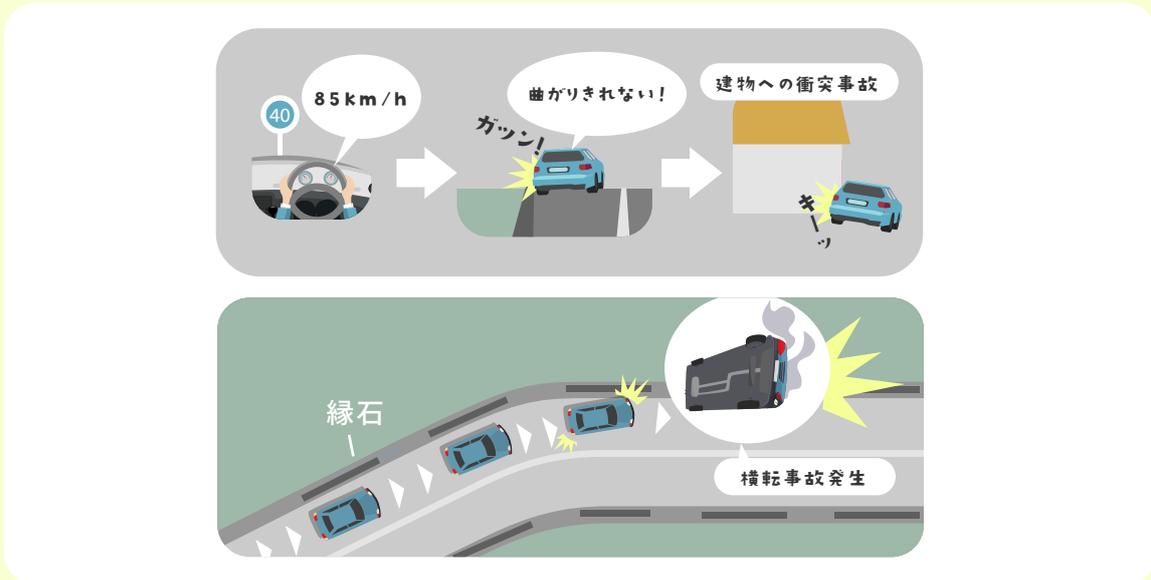


事故防止のポイント

「青信号で左折する時に後方から来たバイクを巻き込む」「左折して路地に入る時、後方から来た自転車を巻き込む」といった事故が発生しています。左折時は前方、後方の安全確認を行い、あらかじめできる限り道路の左側端に寄って、減速してからハンドルを切りましょう。

第3位「スピードオーバー」

スピードの出し過ぎにより運転操作を誤り、建物への衝突や車が横転する等の事故が多く発生しています。



事故防止のポイント

「下り坂道でカーブを曲がり切れず、道路脇の建物に突っ込む」「スピードを出し過ぎてカーブを曲がったら、縁石に乗り上げ横転した」といった事故が発生しています。制限速度を守るのは当然ですが、特にカーブの多い道や、スピードが出やすい坂道ではスピードを落としましょう。

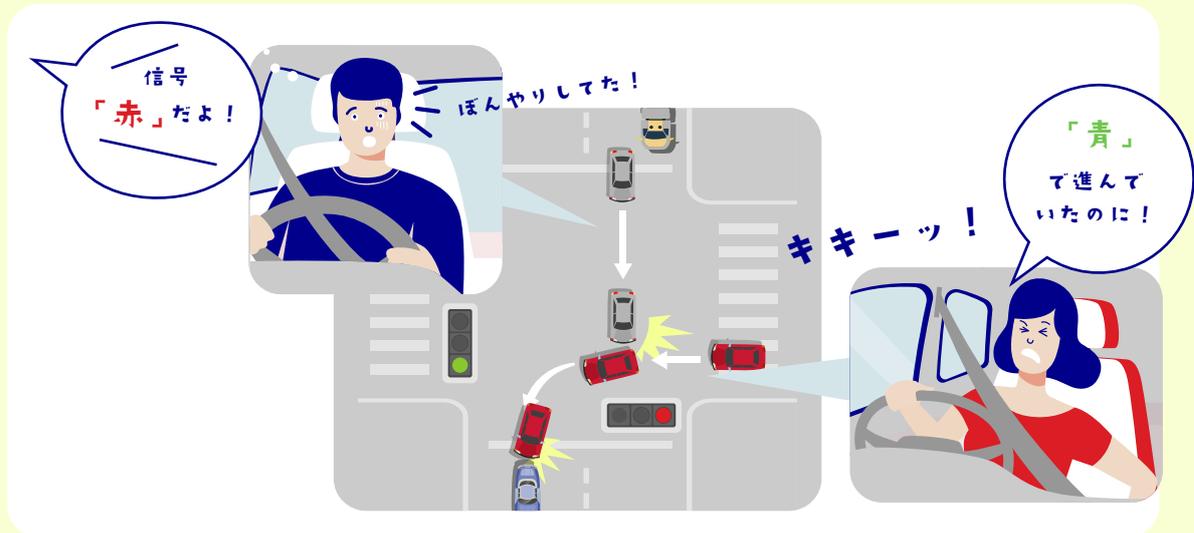
また、慣れた道路であっても、照明がほとんどない場所の夜間通過時、対向車や先行車がない場合はヘッドライトをハイビームにし、スピードを落としての走行をおすすめします。

夜間に信号のない道路を横断している高齢者の発見が遅れ、急ハンドルを切った結果、事故に至るケースも散見されます。



第4位「赤信号無視」

赤信号無視、あるいは見落としが原因で、大きな被害につながる事故が多く発生しています。



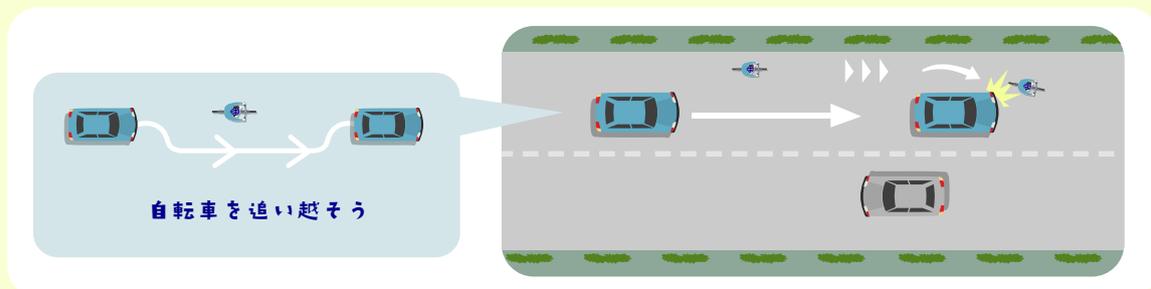
事故防止のポイント

赤信号をわざと無視するのではなく、「西日と重なって赤信号を見落とした」「朝起きてから時間がたっておらず、ぼんやりとしていて信号を見落とした」等が原因のうっかりやぼんやりによる赤信号無視の事故が発生しています。

通常、青信号で走行する自動車は、赤信号側から自動車が進入してくることは予想しておらず、大事故に発展することが多くなっています。「視界が悪い場合はスピードを落とす」「眠気がとれない時はストレッチをしてリフレッシュをする」等の対応をしましょう。無理は禁物です。

第5位「自転車やバイクの追い越し」

自転車やバイクの追い越しの際の接触事故が多く発生しています。



事故防止のポイント

「自転車を追い抜こうとした際に、左側にいた自転車が右に寄ってきたり、右折してきて接触」といった事故が発生しています。自転車やバイクを追い越す際には、予想外の動きをする可能性を考慮し、十分なスペースを保ちながら、追い越すことが大切です。

4

交通心理学から学ぶ事故防止策

【右折事故防止のポイント】



大事故の事故状況分析からは、「右折」が最も頻出するキーワードとして抽出されました。ここでは「右折事故」について考えてみたいと思います。

※以下は右折に関わる交通事故についての一般的な記述であり、今回の大事故の事故状況資料を分析したものではありません。

※大事故とは「死亡」と「後遺障害」「傷害」の補償で1,000万円以上の保険金支払額となる事故のことを指します。

① 右折時はさまざまな相手との衝突を想定する必要がある

右折に関わる事故にはさまざまな状況がありますが、衝突する相手としては、対向直進してくる四輪車、二輪車、自転車、歩行者との衝突、同じ方向に進行する自転車、歩行者との衝突が考えられます。

② 対向車（四輪車または二輪車）との事故の防止は「運転に集中できる環境づくり」が大切

「対向四輪車」または「対向二輪車」との衝突の原因と事故防止のポイント

1) 対向四輪車との衝突の原因

対向四輪車との衝突の場合は、対向車の発見の遅れ（前方不注意や安全不確認）や自分の方が先に曲がれるだろうと考えてしまった判断の誤りが、原因として考えられます。

2) 対向二輪車との衝突の原因

対向二輪車との衝突の場合は、対向四輪車との衝突の原因に加えて、二輪車は四輪車と比べて小さいため、二輪車が速くにそして走行速度も遅く見えてしまう傾向（錯視）があり、二輪車の位置や速度の知覚に影響を及ぼしていることもあります。

そして、夜間では、二輪車のヘッドライトしか認識できないような場合も発生します。このような状況では、二輪車の位置や速度の知覚は、非常に困難なものとなります。また、対向二輪車の場合は、対向四輪車が停止しているのを見て右折を始めたところ、四輪車の陰から二輪車が出てくる、二輪車特有の走行方法（すり抜け）が原因となる事故も発生します。

3) 運転に集中できる環境構築の大切さ

ベテランドライバーであれば、前述のことについてはよく知っていると思います。しかし、疲れている時やぼんやりしている時などには思考力が低下します。また、急いでいる時や他のことに気を取られている時には運転に関する注意力が低下します。これらにより事故を防止するために大事なことが意識にのぼらなくなってしまいます。

右折に関わる事故に限ったことでありませんが、安全運転のためには、ドライバーがそれまでの教育や経験で身につけた能力を十分に発揮し、運転に集中して気を配ることができるよう、十分に睡眠をとる、時間に余裕をもって出発する、等の心理的環境を構築することが重要です。

③ 自転車あるいは歩行者との事故は、「自転車や歩行者を探す気持ち」で防止できる

1) 事故原因

自転車あるいは歩行者との衝突は、右折した先（横断歩道があれば、横断歩道とその付近）で発生します。右折時に対向車が向かってきているような場合には、ドライバーはどのタイミングで右折しようかと対向車ばかりに注意が向いてしまい、道路を横断しようとしている自転車や歩行者の確認を忘れてしまいがちになります。

また、右折するドライバーにとって、対向して道路を渡ってくる自転車や歩行者は比較的目につきやすいのですが、自車と同じ方向に道路を渡っている自転車や歩行者は、自車の正面からかなり右の位置にいますので、角度的に自転車や歩行者を発見しづらくなります。

このタイプの事故は発見のしづらさが原因ですので、自転車や歩行者が見えにくい夜間に増える傾向にあります。



2) 事故防止のポイント

ドライバーは、昼も夜も、右折前や右折中に前方から道路を横断しようとしている自転車や歩行者を確認だけでなく、自分と同じ方向で道路を横断しようとする自転車や歩行者を、しっかりと振り返るようにして確認すること、自転車や歩行者を発見した場合にすぐに止まれる速度で走行することを習慣づける必要があります。自転車や歩行者を確認するとき、ドライバーは単に見るということではなく、自転車や歩行者を「探す」という気持ちで見ると良いと思います。

志堂寺 和則 先生（監修および4章コメント）



九州大学大学院システム情報科学研究院 情報学部門 教授
九州大学大学院統合新領域学府 オートモーティブサイエンス専攻 教授

自動車運転者の心理特性、事故防止に関する効果的なシステム、交通安全教育法等のオートモーティブサイエンスを研究。

日本交通心理学会 副会長、主幹総合交通心理士（日本交通心理学会認定）、日本交通心理士会 常任幹事、日本心理学会諸学会連合 心理学検定局運営委員。著書は、『ヒューマンインタフェース』（コロナ社）、『レクチャー ヒューマン コンピュータインタラクション』（数理工学社）、『交通心理学入門』（企業開発センター交通問題研究室：分担執筆）など多数。

5

知識が助ける事故発生時の正しい対処方法

【事故解決までに注意したいポイント】

事故発生時や事故解決までに、特に注意していただきたいポイントについて解説します。

① 事故発生時の対応

事故に遭遇してしまったら、慌てずに以下の対応をお願いします。
ケガ人の救護を優先し、警察への連絡を完了されたら、ご自身の契約している保険会社にご連絡ください。当社のご契約者さまの場合、以下までご連絡ください。



ケガ人の救護
119番



二次被害の防止
車を安全な場所へ移動



警察へ連絡
110番



アクサ損害保険に連絡
0120-699-644
24時間 365日対応



事故担当者からのアドバイス

- ・事故直後は、受傷された方への対応を最優先にしてください。
- ・賠償に関する約束は行わないようにしてください。
相手方から何らかの費用負担を求められた場合は、保険会社に相談してください。



事故直後には受傷者の応急手当が必要な場合があります。119番通報から救急車が現場に到着するまで平均8分以上かかるため、運転者が現場で行う応急救護措置が、受傷者の救命に重要です。心臓停止の場合は3分以内に処置を行った場合の救命率は50%以上に、呼吸停止の場合は10分以内に処置を行った場合の救命率は50%以上になることが期待できます。(出典：「わかる身につく交通教本」全日本交通安全協会)

また、歩行者や自転車との事故では、歩行者や自転車に乗っていた方が頭部を打撲している可能性があります。大きな事故ではこの傾向が顕著なため、外傷がみられなくても病院の受診をおすすめします。

交通事故は、双方に何らかの責任割合が生じるケースが多いです。事故現場で、相手方から何らかの費用負担を求められた場合には即答せず、保険会社へご相談ください。当事者同士で約束してしまった内容で保険金が支払われず、自己負担となってしまうことがありますのでご注意ください。

お役立ち情報



応急手当は、総務省のホームページから学ぶことができます。

総務省 応急手当



(出典：総務省 消防庁ホームページ「応急手当 Web 講習」)

② 事故翌日以降の対応

事故担当者からのアドバイス

- ・事故相手がケガをしている場合、お見舞いやお声がけがとても大切です。
- ・事故解決は保険金の支払い以外にも、加害者がお見舞いを行うことでスムーズになる等加害者側の姿勢がカギになるケースがあります。



事故で加害者になってしまった場合、被害者の受診している病院等への連絡や、被害者への損害賠償に関する連絡は、保険会社の担当者が行いますが、加害者としての道義上の責任を保険会社が代行することは残念ながらできません。

また、事故で相手方が受傷された場合、先方の意向を確認しながらお見舞いをするようにしましょう。事故直後だけでなく、治療終了までお見舞いやお声がけいただくことで、スムーズな事故解決につながる場合があります。(お見舞いに行かれる場合は、事前に保険会社の担当者にもご連絡をお願いします。)

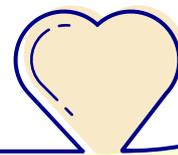
なお、訪問時に費用負担に関する話が出た場合、即答せずに保険会社の担当者へご相談ください。保険金をお支払いできる費用とできない費用がありますので、ご注意ください。



----- 事故担当者のサポートエピソード -----

お客さまが赤信号無視の加害事故を起こし、ご自身もケガをされたケースでは、事故で人を傷つけてしまったショックで、加害者となったお客さまは心身ともに疲れ果てておられました。当社の事故サポートスタッフが電話でまめに連絡を取り、被害に遭われた方の状況はもちろんのこと、お客さまご自身の体調についてもお声がけさせていただいたところ、お客さまは少しずつ元気を取り戻されました。事故担当者として事故対応を通し、お客さまに寄り添い、ケアをさせていただくことの大切さを再認識することとなりました。

私たちはこれからもお客さまに寄り添い、1日も早くお元気になっていただけるよう、心を込めたサービスを提供してまいります。



参考情報

内容	出典
交通事故相談先	国土交通省ホームページ 自賠責保険・共済ポータルサイト 
マイカー点検	JAF ホームページ 
全国事故多発交差点マップ	日本損害保険協会ホームページ 
自動車アセスメント・ チャイルドシートアセスメント	自動車事故対策機構 NASVA ホームページ 
安全運転絵本	警視庁ホームページ 

